

2022 年度入学前特別講座Ⅱ 報告書

2月13日の「入学前特別講座Ⅰ」に引き続き、2月14日から3日間「入学前特別講座Ⅱ」を、名桜大学学生会館6階スカイホールAで開催いたしました。「入学前特別講座Ⅱ」の目的は、「①入学後の学習が円滑に進められるよう、入学までの準備学習を行う。②学習に取り組む意欲を喚起し、入学前・入学後の自律的な学習習慣を維持させる。③ピア・ラーニングを体験させ、入学後の学習センターの活用を促し、主体的な学びに繋げる。」ことです。

講座は、13日に実施した診断テストと最終日16日の達成度テストの結果を比較し、基礎力の向上、苦手意識の改善に繋がることを目指した学習計画の下、3日間とも午前の部「統計学基礎講座」、午後の部「英語講座」の日程で行われました。生徒同士や学生チューターとの貴重な交流や情報交換により、その後の主体的な学びと、自律的に目標を立てて学習を習慣化させることができるようにと願っています。

以下に講座Ⅰ・Ⅱの振り返りを通して、4日間の成果と課題を見ていきます。

表1は4日間の出席状況です。未だコロナ禍でありインフルエンザの感染による欠席者も多いのではないかと懸念もあり、オンライン対応の準備も進めていました。体調不良による欠席者もいましたが、全て欠席した生徒は一人もなく、4日間で実施した3科目7講座への皆出席者が50人（87.7%）となり1回以上の出席率は100%でした。

表1 参加状況：参加数（参加率）3日間皆出席者：50人

	ライティング講座	統計学基礎講座	英語講座
13日(月)	54人(94.7%)		
14日(火)		56人(98.2%)	57人(100%)
15日(水)		57人(100%)	55人(96.5%)
16日(木)		55人(96.5%)	52人(91.2%)



写真 閉講式の様子

入学前特別講座Ⅰ・Ⅱの目的を達成するために4日間の目標として3つの柱を設定し、さらに9つの評価項目（表2）を設定し、初日の①開始前・②終了時・③二日目終了時・④3日目終了時・⑤4日目終了時の5回の自己評価を行いました。表2は5回の評価を行った受講生49人の分析結果です。

表2 2022年度入学前特別講座Ⅰ・Ⅱ 教育効果の分析結果（n=49）

到達度目標		開始時	1日目	2日目	3日目	4日目
1. 入学後の目標を明確にする	①大学生活での目標を明確にすること	3.29	4.00	4.06	4.31	4.55
	②卒業後の目標を明確にすること	3.57	3.76	3.94	4.20	4.29
2. 大学の学びへスムーズに移行できるように準備する	①高校と大学の違いを理解すること	3.29	4.57	4.47	4.55	4.76
	②名桜大学の特色を理解すること	3.71	4.39	4.39	4.47	4.71
	③自らの学習課題を理解すること	3.27	3.98	4.37	4.41	4.59
3. 入学前の準備学習(基礎力養成)	①高校までの学習を復習すること	3.00	3.41	4.10	4.18	4.43
	②大学で専攻する分野の基礎力を身に付けること	2.76	3.53	3.90	3.90	4.24
	③大学で学ぶ意義を理解すること	3.57	4.35	4.37	4.53	4.78
	④入学までの間、学習習慣を維持すること	2.96	3.78	4.04	4.18	4.43

[考察] 開始時より最終日の自己評価が高くなっているのが分かります。初日に最も高かったのは名桜大学の特色を理解するとなっており、受験の際に本学を理解する努力をしていたことが窺えます。その後もさらに上がっています。最終日に最も高くなっているのは、大学で学ぶ意義を理解することとなっており、今回の入学前特別講座の成果と言えると思います。最も大きな変化が見られたのは、大学で専攻する分野の基礎力を身に付けることでした。

2022 年度入学前特別講座 I・II 教育効果の平均値の分析結果 (n = 49)

自己評価 5:かなりできている、4:まあまあできている、3:どちらとも言えない、2:あまりできていない、1:全くできていない

※グラフは平均値、エラーバーは 95%信頼区間を示している。

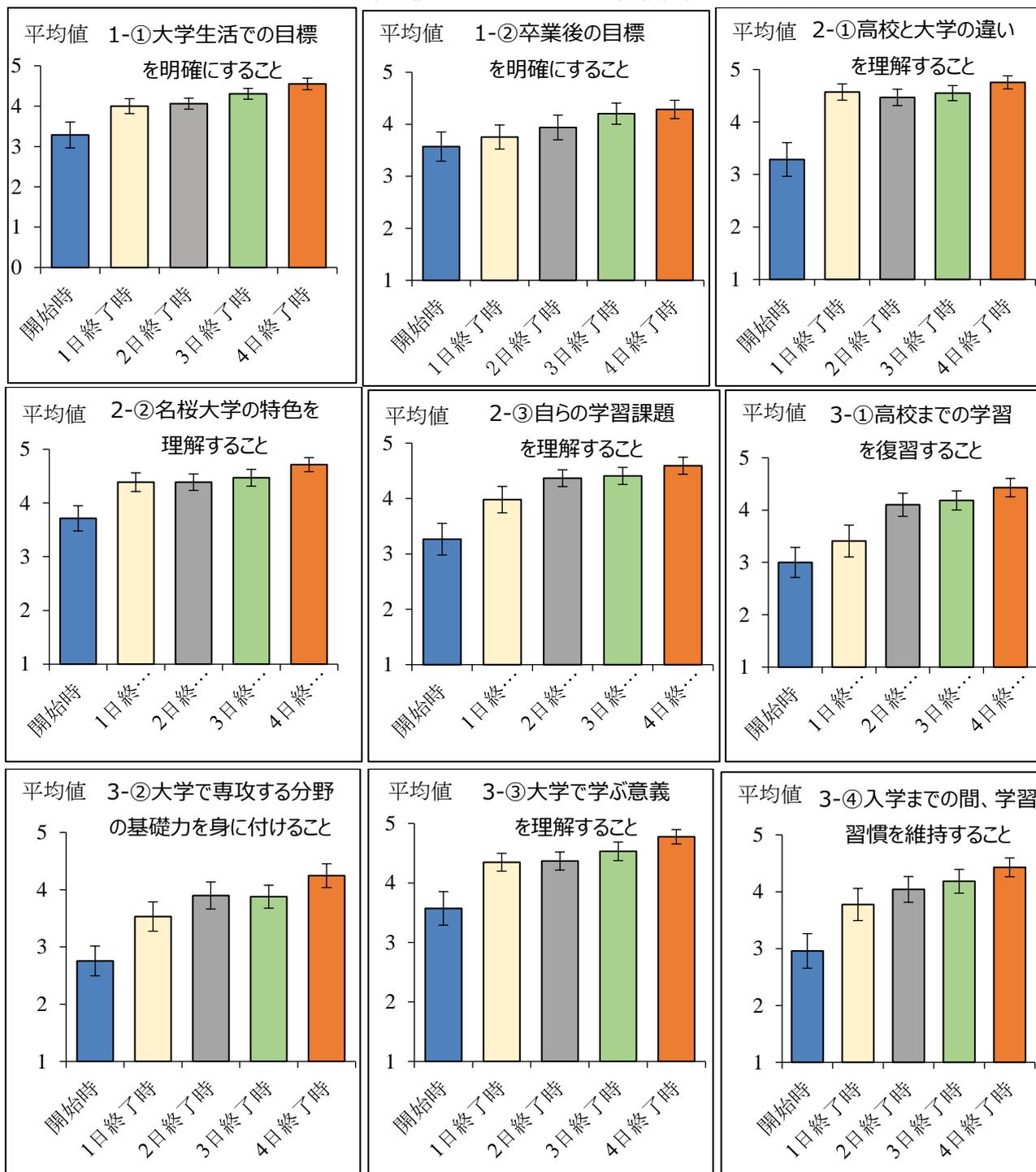


図 目標達成の自己評価

この4日間は、長時間に亘る学習が続く慣れない環境のため緊張の連続だったと思います。終了後の感想には、「楽しかった。参加する前よりも勉強に対する意欲がわいたと思う。」という意欲や主体的な学びの契機となるコメントや、「まだ難しいところもあるけど、少しだけ楽しいと感じてきた。」等のコメントがあり、本講座を肯定的に受け止め、最後まで頑張ったことが受講者の自己評価に表れていると思います。今後も「入学前特別講座 I・II」を今後もしっかり取り組む必要があることを再認識することができました。